



第3回 更新コストと施設統廃合

習志野市の市営水道は、1949年（昭和24年）に事業を開始して以来、安定供給と健全経営を目指し、努力を続けています。しかしながら、長い年月の経過とともに、全国の水道事業者同様、様々な課題も顕在化してきました。その現状をご理解いただくため、市営水道の現状とこれからについて、4回に分けて掲載しています。

今回はその第3回、更新コストと施設統廃合について、ご紹介します。

これまでの掲載内容

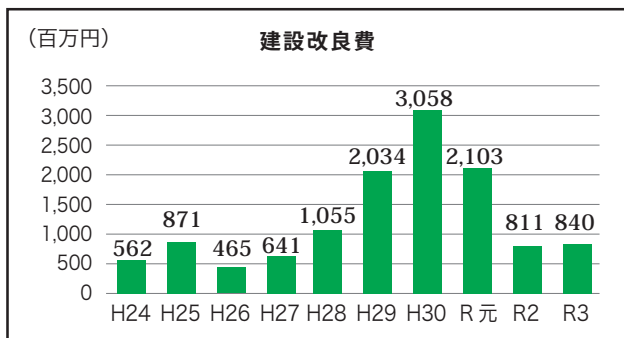
- 第1回 市営水道の施設
- 第2回 老朽化・地震対策の現状
- 今後の掲載予定
- 第4回 給水収益の推移

更新コスト

水道施設や水道管の更新工事費は、建設改良費として支出しています。平成24年度から令和3年度までの10年間に支出した建設改良費は約124億円となり、令和3年度末の企業債（借金）の残高は平成23年度末と比較して2.4倍になりました。

今後は、第3給水場や老朽化が進んでいる井戸の更新が必要です。その後には、第2給水場の更新も行わなければならない、財源の確保が不可欠です。このことに加えて、現状と同じ機能の施設を更新した場合でも、資材や人件費などの上昇により、更新コストは増加することが見込まれます。

更新コストの縮減策としては、これまで水道管とガス管の工事を同時に行うことや、修繕計画を見直し安定供給に支障のない範囲で修繕間隔を長期化するなどの取組を行ってきましたが、将来に向けて財源の確保には更なるコストの縮減や収益の増加を図ることが必要です。



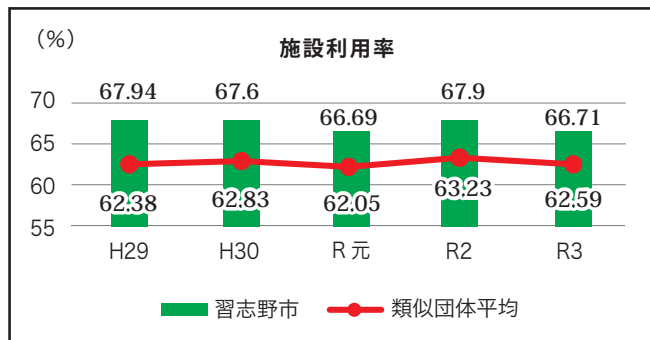
第4給水場の建設と第1給水場の更新を行ったため、H29～R元の支出が他の年度に比べて多くなっています。



水道管の更新工事の様子

施設統廃合

水道施設の利用率は、類似団体（給水人口10万人以上15万人未満の末端給水事業者）と比較して良好といえますが、給水人口が減少し、有収水量も減少していく将来を見据え、施設の適正規模を見極めた適切なダウンサイジングにより更新費用や経費の縮減を図ることが必要です。今後、第3給水場の統廃合や第1給水場及び第2給水場の浄水施設の更新方法について検討します。



第3給水場の配水池

今回は、更新コストと施設統廃合について、ご紹介しました。現在まで、計画的な施設更新を行ってきましたが、物価の高騰や人件費の上昇により、更なるコストの増加が予想されます。今後も、健全経営を維持していくためコストの縮減に努めます。

次回は、給水収益の推移についてご紹介します。